

# 障害者が温暖化防止に貢献

## 廃油のバイオ燃料化に助成

兵庫県

障害者が地球温暖化防止に貢献——兵庫県姫路市の知的障害者入所更生施設「姫路学園」は、2

006年8月からバイオディーゼル燃料(BDF)の精製に着手しているが、県は、同学園のBD

F精製装置に対し、今年度から助成を行う方針だ。県議会公明党・県民会議の北条泰嗣議員が昨

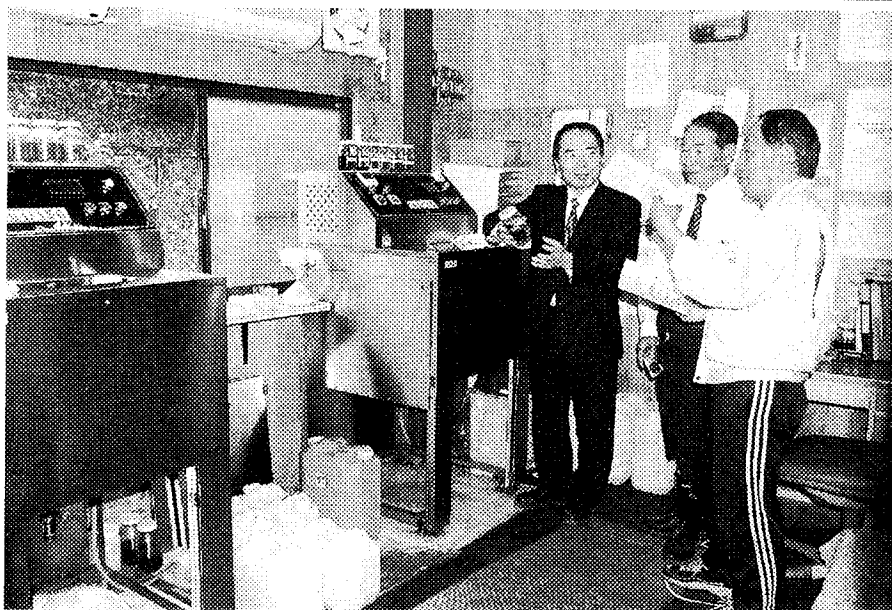
年11月の本会議で「BDF精製装置導入に対する助成制度を創設し、障害者施設や地域住民が参加できるネットワークづくりを」と提案し実現した。

BDFは、植物性の廃食油を原料としているため、地球に優しい燃料として注目されている。

姫路学園では現在、精製装置2台を稼働させ、1カ月6000〜7000リットルのBDFをつくっているという(米藤岩夫事業部長)。原料となる廃

食油の回収先は、職員らの努力もあり、学校や食堂、喫茶店など96カ所にまで拡大。

一方、販売先は姫路市や加西市などの自治体や企業計18カ所で、姫路市では、ごみ収集車(1台)に試験的に使用している。宗実忠施設長は、「収益性が高まってきたので、今年度中にはぜひ、(入所者に)工賃として還元していきたい」と笑顔で語っていた。



姫路学園の職員からBDF精製の説明を受ける北条議員